



みんなで創る みんなで支える

CCT 瓦版

2020年11月号

VOL:169



秋桜畑に現れた青竜

お知らせ

1. 11月の会議日

7日(土)・運営委員会 10:00～ 学生ホール

- ・文化芸術部会 9:20～学生ホール
- ・スポーツ部会 9:20～7号館6階
- ・広報部会 11:30～7110号室
- ・ふれあい部会 13:00～7号館6階

2. 第165回運営委員会(10/10)の主な伝達事項

- ①毎月の部会会場は、文化芸術部会は学生ホール、スポーツ部会は7号館6階となりました。
- ②活動場所の変更…中国語は川中公民館、スペイン語(第1・4木)は勝山公民館となりました。
- ③毎週火曜日の「パソコンワード同好会」「パソコンソフト作成コース」の講座がなくなりました。
- ④勝山中学校との連携…硬式テニス部が「勝山スポーツクラブ」として10/10にスタートしました。(部員8名・於テニスコート)
- ⑤秋の草刈り清掃は中止

トピックス掲示板

新型コロナ禍でCCT活動も3月から9月まで約7ヶ月間長いお休みとなってしまうしました。今年度は主な行事のCCTまつり、ふれあいバス旅行、草刈り清掃作業、東亜大学祭などの主な行事も残念ながらお休みとなります。

先月の瓦版10月号でもお願いしています活動再開についての注意事項を守って「みんなで創る・みんなを支える」をモットーに、コロナと共存を語りながら、楽しく元気で心身健康に努めましょう!

〈CCT事務局〉東亜大学 7号館 7109号室 13時～15時
 TEL: 083-250-5032 (留守番電話に)
 Email: cct2008@water.ocn.ne.jp
 ホームページの検索は『CCT東亜』

会員数
 662名
 9月30日現在



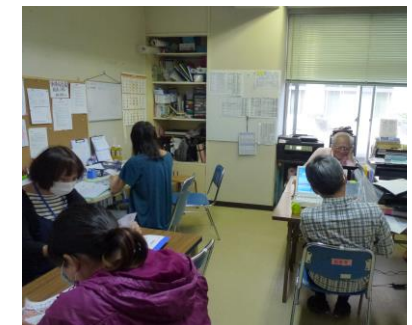
事務局の仕事の紹介



最初にCCTに入会される時に、皆さんは事務局に来て入会の手続きをされたと思います。事務局の仕事は①入退会の手続き②会員や外部からの問い合わせの対応③会費の徴収④かわら版の配布(各講座に仕分け)⑤運営委員会の準備とその報告⑥毎月末の活動報告の集計⑦収支報告等々で、毎週月曜日から土曜日まで(13時～15時)当番を決めて対応しています。まさにCCT内での「縁の下の要」の仕事をしています。忙中閑あり、コーヒープレイクもありますよ。仕事は多々あり、忙しい時は頭が追いつかず、家に帰れば何もしたくない時もあります。

それでも続けられるのは、狭い部屋の事務局ですが、心地よくて楽しい居場所でもあるのだと思います。勿論、「3密」にならないように気をつけています。現在、梶田事務局長外10名(男性5名、女性6名)で楽しくやっていますが、まだ事務局員が足りない状況です。事務局でやってみようかなと思う方、老若男女を問わず大歓迎です。お待ちしております。

事務局 長井 香織



講座紹介

山川異域 風月同天

東亜大学人間科学部 教授
「世界歴史の旅」指導者 黄 曉芬

約 1300 年前、遣唐使の時代に仏教を尊崇していた長屋王（飛鳥から奈良時代にかけての皇族）は、千の袈裟を作って中国の僧侶に贈った。袈裟には金糸で下記の 16 文字が刺繍されていた。

「山川異域 風月同天 寄諸仏子 共結来縁」

この漢詩を読み解くと、世の中の人々は、異なる山河や各々の地域に暮らしていても、みんな同じ天空の下に自然の風物を享受し、同じ月を仰いで生きている。この袈裟を仏弟子に喜捨し、共に永遠の縁を結ぼう、と詠われている。後にこの詩は「繡袈裟衣縁」という題で『全唐詩』第 732 卷に収録され、当時、揚州大明寺の住職だった唐代高僧・鑑真を感動させたと言われている（図 1）。



図 1. 鑑真和上記念碑（中国揚州）

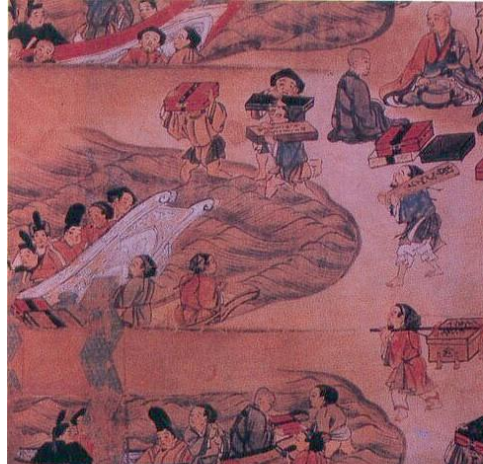


図 2. 鑑真 6 回目の渡海図

742 年、日本から唐に渡った僧・栄叡と普照らが揚州大明寺に訪れ、鑑真に仏法・戒律を日本へ伝えるよう懇請した。それに鑑真は「仏法のためであれば、命を惜しまない」（「是為法事也、何惜身命」『唐大和上東征伝』より）と言って、渡日を決意した。翌年から日本への渡海を 5 回にわたり

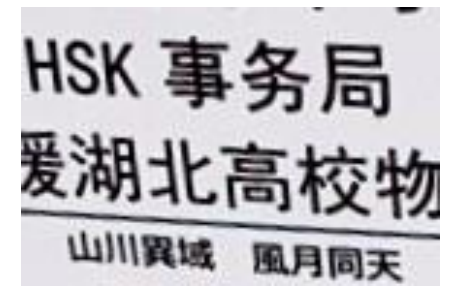
試みたが、悉く挫折、失敗に終わった。753 年、遣唐大使の藤原清河らの要請で鑑真は 6 回目で渡日をやっと果たした（図 2）。奈良平城京に到着し聖武上皇以下の歓待を受け、東大寺と後に創建した唐招提寺に戒壇（僧尼となるものに戒を授ける為の壇）を築き、多くの僧尼に戒律（戒…仏教徒が守るべき禁制・律…僧団で守るべき集団規則）を授けた。唐の高僧で塑像や医術の心得もあった鑑真和上は仏法・戒律を授けただけでなく、中国文化や漢方も日本へもたらしたのである。

最近、中国大陸に新型肺炎が猛威を振るうなか、日本から武漢へ送る支援物資には、鑑真和上ゆかりの言葉である「山川異域、風月同天」が書かれた一文も添えられている。この日中文化交流史の逸話を紐解いて災害を乗り越えようとのメッセージが届き、日本人の知的な応援歌を称賛する声が中国各地に響き、受難の人々に大きな勇気と感動を与えた。

歴史を学ぶとは、人類が過去に蓄積してきた英知を学び、「過去と現在の対話」を実践するものである。世界各地の歴史文化遺産・遺物をたずねて観察し、過去に生きた人々の魂と触れ合い、現代社会を生きぬく知恵を身につけることができる。そして、過去と現在・自己と他者を知り、人間社会における異文化理解の楽しさと難しさを実感することもできる。それによって、好奇心や人間の豊かな感性が養われる一方、偏見や差別をなくし柔軟な発想と寛容な精神をもって、より充実な人生を送られるのである。さあ、楽しい「世界歴史の旅」に出かけましょう。



黄先生…ギリシア・ミケイネ王朝
王墓前で



中国への支援物資の箱に、「山川異域 風月同天…の文字が！

この原稿は 黄 曉芬 先生から本年 3 月に頂き、瓦版 4 月号に掲載予定でしたが、瓦版も休止したために掲載が遅れましたことをお詫び申し上げます。